

13パーセントからの スタート

～ 認知度向上のための取組～



学校法人豊野学園 豊野高等専修学校

1 本校の認知度を高め、社会性を育む地域ネットワークシステムの構築……………	1
--	---

2 資料

①中学3年生対象のアンケート用紙……………	8
②本校認知度アンケート結果……………	9
③本年度作成したリーフレット（北信管内全中学校配布）……………	10
④「やればできる」という自信や前向きな姿勢を育むための10の取り組み ……	12
⑤パネルディスカッションの様子……………	14
⑥私を遥かに超えていった生徒たち（パネルディスカッションから）……………	15
⑦入学前に可能な中学生への学習支援！……………	17
⑧本校への志願・進学を決めたアンケート用紙……………	19
⑨本校への志願・進学を決めたアンケート結果……………	20
⑩中1から本校3年までの欠席数の推移（平成30年度・令和元年度卒業生） ……	21
⑪令和元年度 表彰・入賞および各種検定合格者一覧……………	22

「豊野高等専修学校の認知度13%」という衝撃的な結果を目の当たりにして「どうすれば本校のことを知ってもらえるのか」について、全職員で試行錯誤しながら取り組んできたことをまとめてみた。

本校の認知度を高め、社会性を育む地域ネットワークシステムの構築

1 研究テーマ

本校は、長野県内唯一の高等専修学校で、高等課程と専門課程があり、様々な特性や個性を持った生徒たちが集う生徒数100名ほどの専修学校である。

小中学校時代に不登校を経験したり、大勢の集団の中では生活しづらかったり、興味関心がある事柄についてはほとんど追究したり、一つのことに強いこだわりを持っていたり、実に様々な特性を持った生徒たちが通っている。

本校の特色として次の4点があげられる。

- ① 一人ひとりに寄り添えるように1クラス20名程度の少人数で学べる学習環境
- ② 朝が苦手な生徒や集団での生活が苦手な生徒が自分のペースで登校したり学習することができる学級を各学年に併設
- ③ 専修学校の強みを生かしたカリキュラムを編成し、特に学力に不安のある生徒が安心して学べる教育課程の編成
- ④ 創設以来受け継いでいる「ものづくりは人づくり」の理念を具現した「服飾」「美術」「情報」「介護」の4コースの選択制

本校の最大の課題は「自分を好きになり、自分に自信を持てる生徒を育てるための支援」である。

多くの生徒が、いじめや集団への不適応など様々な挫折を経験してきている。“自分はどうせ何をやってもだめだ”と自分に自信を持ってないでいる生徒、目標としていた高校には行けずに本校に入学してきた生徒、このような生徒たちに「自分もやればできるかもしれない」「自分も捨てたものじゃない」という自信を持たせ、社会の一員としての役割を果たせる社会性を育み、未来への夢と希望を持たせてやるのが本校の最大の使命だと考える。この使命を果たすためには、本校における限られた教育力だけでは限界があることは明白である。

そこで、本校の特色を幅広く周知し、地域と連携し地域とふれあい、様々な人と関わりながらの学びを通して本校の使命を果たそうと願い、本研究テーマを掲げた。

2 研究のねらい

本研究におけるねらいは2つある。

1つ目は、本校の認知度を高めることである。北信地区内において、不登校傾向、集団への不適応、発達障害などの特性を持つ中学生の大切な受け皿となっている本校が果たしている役割は大きいと自負している。ところが、本校の存在そのものがそれほど知られていないのが現状である。

特に、中学校における認知度が低いことは、私立の学校として生徒募集に力を入れている本校にとっては大きな打撃である。

さらに、例年11月から新聞に発表される県内各高校（公立・私立）の定員や募集状況の中に本校が掲載されていないのも事実である。

そこで、本校の認知度を高めるために、さらには、中学校からのスムーズな移行も含めて、中学校との連携強化を図り、認知度を高めることをねらいの1つとした。

2つ目のねらいは、地域とのつながりを深め、様々な人との関わりを通して、社会性を育てることである。

集団で活動することの心地よさや人の役に立つ活動によって得られる達成感などの成功体験が乏しいのも本

校生徒の特徴と言える。

このような生徒たちに、地域における教育力を活用し、地域とかがわれるような体験的な学習の場をより多く設定することで、「集団における役割を果たすやりがい」「自分だってやればできるという自己肯定感」「人の役に立つことの喜び」などを体感させることを2つ目のねらいとした。

■ねらいを達成するための手立て

(1) 認知度を高めるために

- ① 中高連絡会の見直し
- ② 認知度アンケートの実施
- ③ パネルディスカッションによる学校紹介
- ④ 支援基礎票の作成と効果的活用

(2) 社会性を育てる地域とのネットワークづくり

- ① 地域と触れあい、人と関わる活動
- ② 地域貢献をめざしたボランティア活動
- ③ 外部講師による出前授業

3 経過・内容

(1) 認知度を高めるための実践

① 中高連絡会の見直し

本校におけるこれまでの中高連絡会はどちらかというと事務連絡のような内容が多かった。

パンフレットに書かれたことを説明する学校紹介、募集要項による生徒募集に関する連絡など事務的な内容が多く、配布資料についての説明と質疑応答が中心の連絡会であった。

この中高連絡会をより実のあるものとするため、中学校の先生方とざっくばらんに意見交換できるようグループ討議の時間を設定した。全体会において、本校の経営方針、特色、生徒の様子、中学校へのお願いを説明し、それについてグループ討議で深めていくという形で実施した。

本校職員を含めて10名程度の小グループなので意見や質問も出しやすく、気軽な雰囲気です討議を進めることができた。



中高連絡会 グループ討議の様子

中学校の先生方からは、本校の認知度を高めるための方法や本校へのスムーズな移行のためにいくつかの具体的な提案をいただくことができた。

- ・パンフレットをもう少し見やすいものに工夫していただきたい。特に、生徒の一日の動きが分かるとありがたい。
- ・貴校に行きたくても親が送迎できない場合交通手段がなくて貴校をあきらめる生徒もいる。送迎バス・巡回バスのようなものは用意できないか。

この他に「全体会で説明されたことをグループ討議で丁寧に補足していただいたことで、貴校のイメージがしっかり持てました。グループ討議があつてよかったです」という大変ありがたい声をいただくことができた。

半面、次のような声が複数あった。

- ・生徒や保護者、職員の中にも貴校の特色や良さなどについて周知できていないことが多いと思われる。
- ・今日の説明や話し合いで、貴校のことが私はよくわかりましたが、各中学校への周知が少ないと感じています。より広く、より深く各中学校に知ってもらいたい。

このような声を受けて、本校の認知度はどの程度なのかを把握し、その対策を講じるために「認知度アンケート」の実施を決めた。

② 認知度アンケート結果を活かした取り組み

アンケートは、北信地区から抽出した中学 15 校の 3 年生約 1,000 人をお願いした。内容は、記入しやすいように「本校を知っているか、知らないか」。知っている場合は「どのように知ったか」（選択）、「知っている内容について」という簡単なアンケート項目とした。【資料①参照】

<アンケート結果> 【資料②参照】

知っている	知らない
123人 (13%)	811人 (87%)

想定していた結果を上回る 87%もの中学3年生が本校を知らないという結果であった。中には知っている人が一人もない中学校も1校あった。

今回のアンケートの結果、および中高連絡での中学校の先生方からの声から、本校の認知度は、私たちが思っている以上に低いという認識を改めて持つことができた。

そこで、認知度を高めるために出来ることは何か、しなくてはならないことは何か、について「認知度UPプロジェクトチーム」を立ち上げて全職員でアイデアを出しあい、以下の取り組みを行ってきている。

ア リーフレット作成 【資料③参照】

本校の特色、生徒の様子、進路情報などについて端的にまとめたリーフレットを作成し、北信地区の全中学校の3年生および職員約 6,500 人に配布するとともに、年4回実施する体験学習に参加した中学生や保護者の方々や教育相談や見学などで来校された方々に配布した。

イ Q&A作成

本校のことをできるだけわかりやすく紹介するために「豊野高等専修学校Q&A」を作成し、教育相談や体験学習などで来校した生徒や保護者、職員などに配布している。

内容は、本校の特色である「A組」と「B組」の違い、さくら国際通信高校との連携について、学校生活についてなどをQ&A形式でわかりやすく説明した。

③ パネルディスカッションによる学校紹介 【資料④⑤】

中学生への学校紹介は、これまで教頭、副校長が説明するだけだったが、生徒の生の声の方が伝わると思い、生徒とのパネルディスカッション形式を実施してみた。人前で話をするのを苦手としている生徒が多いので不安もあったが、こういう場で話せる生徒にしたいという願いを込めて挑戦してみた。

事前の打ち合わせは行わず、説明のための原稿もなく、その場での進行からの質問に自分の言葉で答える、という緊張感あふれる場であった。話せるだろうかという不安もあったが、生徒たちは中学3年生と保護者あわせて100名を超える人の前で、素直な気持ちで自分の言葉でありのままの話をしてくれた。

・私は中学校の時、ほとんど学校に登校できていなくて、しかも、人見知りがすごくて、家族以外とは誰とも話さなかったけど、この学校に来てみると私と同じような人がいたり、少人数ともいうこともあってだんだんと話せるようになってきた。だから今は安心して学校に来れています。

「私は中学校ではほとんど学校に行っていないでした」と明るい表情で、堂々と話をする生徒たちを、中学生や保護者はどのように感じただろうか。

④ 支援基礎票の作成と活用

中学校からのスムーズな移行のために「支援基礎票」を作成した。中高連絡会にて提案し、実際に作成

していただく中学校の先生方からの意見をいただき改善を重ねてきた。

入学が決まった生徒については、支援基礎票を提出してもらい、この支援基礎票を用いての支援会議を入学前に行うことで、年度当初の不安や不適應に対しても早めに適切な対応ができる体制を構築するなど、スムーズに本校でのスタートが切れるように配慮した。

また、支援基礎票や入学前の支援会議を通して中学校の先生方との連携を深めてきている。

(2) 社会性を高めるための地域連携の具体

① 地域と触れ合い、人と関わる活動

ア 「幸福食堂」への参加

私は以前にもこの施設でボランティアをしましたが、その時にも「必要最低限の手助けをする場」だということを教えていただき驚きました。私はそれまで、家で生活することが困難になってしまった人たちに、職員が全て手助けしてあげるのだと思っていました。でも、実際は一人ではできないことを手助けしているだけなのです。人の力を借り続けることは、自分らしく生きることにプラスになるとは思いません。自分らしく生きるには「出来ることは自分でやる」それが一番大切なことだと思います。

私はボランティア活動を体験して、教室では学べないことを学ぶことができました。こういう経験はすぐには役立たなくても、将来、必ず役に立つときが来ると思います。これからもいろいろなことを学び続けたいです。

本校から徒歩15分の場所にある老人養護施設である「清風園」に春休みにボランティアをおこなったことがきっかけで、清風園が開催している「幸福食堂」に再びボランティアとして参加することとなった。

本校には介護コースがあり、3年時からの受講が可能となっているが、介護コースでの学習を希望している生徒が中心となり、休日に行われる幸福食堂に自主的に参加し、利用者さんと歌を歌ったり、ゲームをしたりと交流を深めてきた。利用者の方々からも好評で、毎回開催案内が届くようになった。

参加した生徒は、将来は介護福祉士を目指していたり、介護関係の仕事に就きたいと考えている生徒たちなので、インターンシップとしての効果もあり、意欲的に参加している。参加した生徒は次のように感想を述べている。

イ 豊野駅改札口前でのあいさつ運動



あいさつ運動の様子

「学校のことをもっと知ってもらいたい」という願いから「校外であいさつ運動をやってもいいですか」と生徒から申し出があった。場所は、生徒の多くが利用しており日ごろお世話になっている豊野駅の改札口前で行いたい、という申し出であった。

そこで、豊野駅に実施の可否を確認に行ったところ、改札口前の場所の管轄は駅ではなく長野市であることが分かった。生徒たちは豊野支所に出向き、担当の方にお願ひし、許可を得た。このように、あいさつ運動を始めるまでの手順や段取りを学び、さらに、たとえわずかな時間のあいさつ運動でも許可無く行うことが出来ないことを知ることができた。

そして、このあいさつ運動は、その後、豊野駅での文化祭の宣伝のためのポケットティッシュ配りや台風19号での被災者への募金活動につながっていったのである。

ウ 地元農家との連携

地元農家の「担い手不足解消」と本校のインターンシップ受け入れ先の開発というねらいが合致し、豊野町の特産でもあるリンゴ農家との連携が実現した。

- ・ 6月：リンゴ畑のゴミ拾い
- ・ 6月：摘果作業
- ・ 8月：収穫作業
- ・ 10月：文化祭での出店と手伝い（凍らせたカップリンゴを販売）
- ・ 10月：台風19号による被災の片づけ手伝い

暑い日の摘果作業や収穫作業となり、参加した生徒たちは疲れ切った表情で戻ってきたが、「こんなにリンゴと向かい合ったのは初めてで、これまで以上にリンゴが好きになった」と無邪気に話をしてくれた。今後は、情報コースの生徒たちが農家のホームページ作成への協力を考えている。

エ 文化祭（いばら祭）へ地域のお店が出店

例年のいばら祭の食堂は、カレーや豚汁を作ったり、パンやドーナッツを仕入れて販売してきた。

地域との触れあいを大切にしてきた今年は、食堂係から「地域のお店にいばら祭に出店してもらい、生徒は設営や片付け、売り場を手伝うという形はどうか」と提案された。

当日は、大きな声で販売をしたり、売り場を手伝いながら、お店の方と談笑している姿が多く見られた。苦労してようやく完売したときの生徒たちの笑顔は達成感に満ちていてとても爽やかだった。

② 地域貢献をめざしたボランティア活動

これまで実践してきた地域との交流やあいさつ運動は、10月に起きた台風19号による豊野地区への甚大な被害の際に「地域貢献」という形でつながっていった。

これまでに関わってきた方々の中にも大きな被害に見舞われた人たちもいて、生徒たちは被害への対応について真剣に考えた。

ア ボランティア委員会の立ち上げ

「被害に遭った地域の方や避難所生活をしている人たちの力になれることはないだろうか」「私たちにもできることがあるはず」という思いから、2年生が中心となって全校に呼びかけ、有志によるボランティア委員会を立ち上げた。「地域貢献」を合言葉に自分たちに出来ることをリサーチし、やれることから始めた。

◆避難所で生活している小学生へ読み聞かせ、紙芝居、縄跳びなどをして一緒に遊んだり、宿題をみてやる

◆避難所での炊き出しの手伝い

主な活動はこの二つだが、生徒たちは、いつもお世話になっている地域の方々に少しでも恩返しをしたいと思いついで活動に参加している。

このボランティア活動では、普段はおとなしい生徒やあまり目立った行動のない生徒も自主的に参加し、読み聞かせが上手であったり、小学生の気持ちをほぐすのが上手であったりと普段の学校生活や授業では見ることが出来ない、思いがけない一面を見ることができた。

イ 募金活動や看板づくり

ボランティア委員会の活動以外にも、生徒会役員による豊野駅改札口前での募金活動や環境委員会による「がんばろう！豊野！」の看板製作（豊野駅改札前に掲示）など、生徒たちは「自分たちの思いが形になり、少しでも役に立っていることの喜び」を実感することができた。地域の方から

「駅にある『がんばろう！豊野』に励まされた。嬉しかった」とありがたい声をいただいた。

③ スペシャリストによる授業の充実

各分野のスペシャリストから専門的な技能を学ぼうというねらいで、外部から講師を招いて出前授業を実施していただいている。



美術	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：岡学園の教員2名、全14h ・デジタル絵画、イラスト ・3Dソフトによるキャラクター作成 ・Tシャツ、クリアファイルのデザイン
介護	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：福祉施設の支援員、全10h ・介護の基本などの講義 ・ベッドや車いすの介助方法などの実習
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：(株)「匠電舎」社員3名 全18h ・「ルビー」というアプリケーションを使つての自販機のプログラミング作成 ・3グループに分かれたグループ学習
キャリア	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：飯山仏壇の店主 全2h ・企業理念や伝統産業についての説明 ・企業が求める人材について ・後日、工場を見学する

講師の先生方が持参する専門的な教材・教具などが、本校ではなかなか用意できないものなので、生徒たちの学ぶ意欲の喚起につながっている。今後も、生徒の学習に寄せるニーズに応じて外部講師による授業を増やしていきたいと考えている。

4 成果と課題

(1) 認知度を高める取り組みについて

① 成果

認知度を高める取り組みの成果を検証する手段として体験学習参加生徒数と中高連絡会への出席職員数をまとめてみた。

■体験学習参加生徒数

	6月	7月	8月	10月
H30	23	30	41	42
R1	39	38	42	58

■中高連絡会参加職員数

	5月	9月
H30	23	19
R1	39	40

いずれも昨年度よりも参加者数が明らかに増加している。特に、10月実施の体験学習には58名というこれまでで最大の参加者があったことや、2回の中高連絡会にも40名の中学校の先生方の出席があったことは、認知度を高める取り組みの成果と言えるのではないだろうか。

② 課題

本校の募集定員は50名だが、昨年度の志願者数は、優先受験と一般受検合わせて49名(入学者は43名)。今年度も優先入学志願者だけで50名近くになりそうだ(願書受付は1月)。中学校における不登校(傾向も含めて)生徒は増加しており、発達障害の在籍比率も上がっている現状で本校の役割もまた増してくるであろう。認知度が高まることにより、入学者数が増えた際、学びや支援の質を落とさないための環境整備などが課題となる。

- ・少人数学習の保証するための教室配置
- ・カウンセリング、相談体制の充実

- ・支援基礎票のより効果的な活用
- ・ホームページによる情報発信

(2)地域連携強化のための取り組みについて

① 成果

ア 地域の方々とのふれあいを通しての成果・収穫は、普段の授業や学校生活では見られない生徒の姿を見ることができたことである。

特に、ボランティア活動で小学生と遊んでいるときの生徒たちに「この生徒はこんな表情をするんだな」とうれしい発見があった。水害の被害になった施設の片づけをしている時の生徒たちは、真剣だった。普段の清掃にはやや集中力にける生徒も、この作業には本気で取り組んでいた。「先生、明日もやりましょーう」という声も聞かれた。

このように、普段の学校生活では見られない表情を見ることができたり、前向きな声をきくことができたことは、生徒が持っている可能性を十分感じさせてくれた。

イ 地域の方に来校していただき生徒と直に触れ合っていたいただいたことは、本校の様子を知ってもらう上でも大きな成果があった。

「学校の前はよく通るけど、学校のことはよく知らなくて、不登校の生徒が通っていると聞いていたので、学校の雰囲気はどうかなあと思っていた。今回初めて中に入って生徒と話をしてみて、生徒たちが実に生き生きしているのに驚きました。」という感想を伝えてくれた地域の方がいた。生徒と触れ合うことによって、本校の生徒の特性や頑張っている姿を知ってもらう機会になったことは大きな成果である。

② 課題

ア 無理をしない持続可能な地域連携を考えていきたい。地域との連携を始めると、ややもすると「あれもやろう」「これもやれるんじゃないか」と活動が増えていったり、地域や学校の思いが先行しすぎて生徒を置き去りしてしまったりすることがある。それでは、長続きはしないし、生徒の意欲も失せてしまう。生徒の思いや考え、自主性を大事にして推進していきたい。

イ 活動が継続していくためには、活動時間を確保するなどの環境整備が必要となる。特に、ボランティア活動の内容によっては、授業時間中に行いたいという要望があった場合に、授業を公欠扱いすることを検討している。

(3)まとめ

本研究を通して、社会性を育て「やればできる」「じぶんもまんざら捨てたものじゃない」という生徒の自己肯定感を高めたいという本校の使命を果たせつつあるという手応えを持つことができた。

これからも、様々な特性を持っている生徒たちの可能性を伸ばし、将来への明るい見通しが持てる生徒を育てるために、「一校一家」の精神のもと全職員が一丸となって取り組んでいきたいという決意を新たにしました。



生徒が作成した今年度のいばら祭ポスター

該当する回答の（ ）の中に○をお願いします。

1 豊野高等専修学校という学校があることを知っていますか

() 知っている () 知らない

「知らない」と答えた人は以下の質問には答えなくて結構です。

「知っている」と答えた人は以下の質問にも答えてください。

2 本校のことをどのように知りましたか。

- () 先生から聞いた
() 友達や先輩から聞いた
() 親、兄弟姉妹などお家の方から聞いた
() パンフレットを見たことがある
() その他

3 本校には、「服飾」「美術」「情報」「介護」という専門科目の授業があることを知っていますか。

() 知っている () 知らない

4 本校には、2時間目（10時ころ）から登校し、一斉に受ける授業ではなく、各自の計画で学習する「B組」というクラスがあることを知っていますか。

() 知っている () 知らない

5 本校は文科省から「大学入学資格付与」を認められている専修学校です。本校を卒業すると高等学校卒業程度とみなされますが、このことを知っていますか。

() 知っている () 知らない

6 本校は上田にある「さくら国際高等学校」のキャンパス校にもなっているので、本校に入学すると、希望者は「さくら国際高等学校」にも入学できます。このことを知っていますか？

() 知っている () 知らない

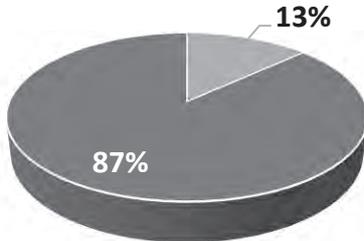
アンケートは以上です。

協力ありがとうございました。

豊野高等専修学校 認知度調査

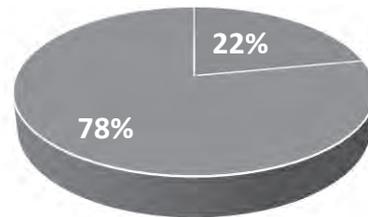
- 1 アンケート形式
- 2 対象 長野市・上水内郡・下高井・須高の中学校15校 中学3年生 回収数：934
- 3 実施期日 令和元年5月上旬（回収日 5月10日）

本校を知っていますか



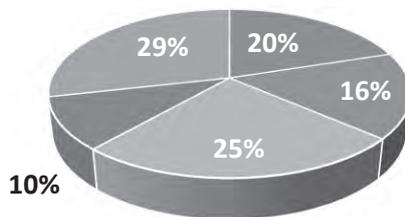
知っている13%
知らない87%

専門科目のことを知っていますか



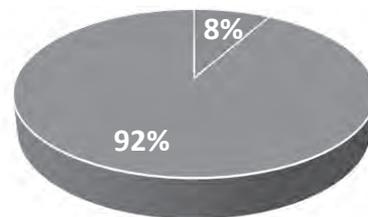
知っている22%
知らない78%

どのように知りましたか



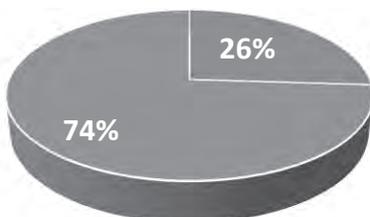
その他29%
親・兄弟 25%
先生 20%
友達・先輩16%
パンフレット10%

A組・B組のことを知っていますか



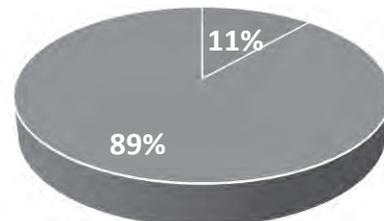
知っている8%
知らない92%

大学資格付与のことを知っていますか



知っている26%
知らない 74%

さくら国際と提携していることを知っていますか



知っている11%
知らない89%

新しい自分と会える なりたい自分がみつかると自分らしくいられる

本校の特色 (2019.4実施の2年生へのアンケートから)

- ・先生から「休んでもいいんだよ」と言われて楽になった。
- ・授業のレベルが自分に合っていて、ついていける。
- ・生徒の数が自分には合っている。
- ・同じような中学校生活を送ってきた人が多いから話しやすい。
- ・カウンセリングの先生方が充実していて悩みを話しやすい。
- ・専門科目で作品が完成した時の気持ちは最高だった。
- ・自分と向き合える時間が十分に取れた一年間だった。

専門科目は
火・木・金
の3日間で
合計6時間
もあるよ！
楽しいよ！



私は、4回とも参加して、全ての専門科目の授業を体験したよ！



令和元年度「体験学習」

第1回目	6月 9日(日)
第2回目	7月 14日(日)
第3回目	8月 4日(日)
第4回目	10月27日(日)

- ・専門科目の授業を体験できます。
- ・介護は第3回、第4回のみを選択となります。
- ・本校の特色や学校の様子などをわかりやすく紹介します。
- ・希望すれば個別の相談の時間もあります。お気軽に申し出て下さい。

詳細はホームページで
ご確認ください。

専門科目

学校見学・教育相談・学習相談はいつでも受け付けています。気軽に連絡して下さい！

生活情報コース

コンピュータに関する基本的知識や技術を中心に、生活や将来の就職に役立つ情報技術を習得します。各種PC検定にも挑戦します。

生活美術コース

絵画・デザイン・彫刻・工芸など基本的な技法から、イラスト・マンガ・アニメなどそれぞれの個性や興味関心に応じて幅広く学べます。

生活服飾コース

個性やアイデアをいかした作品作りは、本校が大事にしている伝統の一つです。いばら祭でのファッションショーは、とても見応えがあります。

生活介護コース

介護現場での人材の不足をおぎない、安心できる社会の実現のために就職のために就職に役立つ資格取得を目指します。介護職員初任者研修資格を取得できます。

本校の最大イベント「いばら祭」

令和元年10月5日(土)・6日(日)



- ・高等専修学校ですが、進学や就職では高校卒業と同じにみなされます。
- ・さくら国際高校と連携することで、高校卒業となります。詳細は、体験学習の際に説明します。



学校法人

豊野学園 豊野高等専修学校

大学入学資格付与(高等学校卒業程度)指定校

〒389-1105 長野市豊野町豊野1344 ☎ 026-257-2127

※このリーフレットの原案は、情報コースの生徒が作成しました。

昨年度の卒業生の進路先

【進学】

- ◆大学
 - ・長野大学
 - ・松陰大学(神奈川県)
 - ・京都造形芸術大学(通信教育部)
 - ・岡学園トータルデザインアカデミー(2名)
 - ・長野美術専門学校
 - ・大原簿記情報ビジネス衣料専門学校
- ◆専門学校
 - ・信州医療福祉専門学校(2名)
 - ・長野調理製菓専門学校
 - ・カレッジオブキャリア(2名)
 - ・新潟調理師専門学校
 - ・新潟コミュニケーションアート専門学校
 - ・東京放送術&映画・俳優専門学校
 - ・アミューズメントメディア総合学院
- ◆専門学校
 - ・新潟コンピュータ専門学校(3名)

【就職】

- ・ホテルセレクトイン(長野市:2名) ・クラーレル(須崎市)
- ・須坂やすらぎの園(須崎市) ・株式会社コヤマ(長野市)
- ・豊上製菓(上田市) ・いいやま介護老人保健施設(飯山市)
- ・竹風堂(小布施町)

【その他】

- ・海外の語学学校(オーストラリア)

部活動

- 部活動は、木・金の二日間、放課後1時間程度、活動しています。入部は強制ではありません。
- 今年度は、「美術部」「ダンス部」「合唱部」「スポーツ吹矢部」「絵本作成部」「卓球部」「バドミントン部」「ボイスサークル」の8つの部が活動しています。
- スポーツ吹矢部は、「全国高等専修学校体育大会」に出場していて、昨年度は2年連続で団体戦と個人戦で優勝するという快挙を達成しています。
- 今年度は、「バドミントン」「卓球」でも出場を予定しています。
- さらに、「全国高校総体(インターハイ)」への出場を目指している生徒もいます。

日課表

校	時	時	間	月	火	水	木	金
登校	8:45	○	○	○	○	○	○	○
連絡会	8:45～8:50	○	○	○	○	○	○	○
朝礼	8:50～8:55	○	○	○	○	○	○	○
いばらタイム	9:00～9:15	読書	体操	読書	読書	読書	清掃	体操
1	9:20～10:05	月1	火1	水1	木1	金1		
2	10:15～11:00	月2	火2	水2	木2	金2		
3	11:10～11:55	月3	火3	水3	木3	金3		
昼食	11:55～12:40	○	○	△	○	○	○	○
4	12:40～13:25	体育	専門	専門	専門	専門	専門	専門
5	13:35～14:20	体育	専門	専門	専門	専門	専門	専門
着替	14:20～14:30	○	○	○	○	○	○	○
清掃	14:30～14:45	○	○	○	○	○	○	○
S H R	14:50～15:00	○	○	○	○	○	○	○
終礼	15:00～15:05	○	○	○	○	○	○	○
6	15:20～16:00	レポート	レポート	レポート	レポート	部活動	部活動	部活動
通常下校	16:30	16:30	16:30	12:30	16:30	16:30	16:30	16:30
最終下校	17:00	17:00	17:00	14:00	17:00	17:00	17:00	17:00

- 各学年に「A組」と「B組」があります。どちらにするかは選択できません。
- 「A組」に所属すると、上記の日課表に沿って生活・学習します。
- 「B組」に所属すると、2校時から登校し、一斉授業は少なく、各自のペースで学習します。
- 「A組」と「B組」については、体験学習の際などに説明します。

「やればできる」という自信や前向きな姿勢を育むための 10 の取り組み

1 生徒による校歌のピアノ伴奏

始業式や終業式などの儀式的な行事の中で歌う校歌の伴奏は、これまで職員が行ってきた。1 学年の中にピアノが弾ける生徒がいるということで、今年度は校歌の伴奏を生徒に依頼したところ、二人の生徒が担当してくれた。この伴奏を担当することで、「私だってやればできる」という自信を深めてくれることを願っている。

2 投稿欄「10代」への投稿

授業の中で書いた作文やパネルディスカッションで発言した内容などを本人の了解を得て信濃毎日新聞の「10代」に投稿することを始めた。今年は下記の3人の作文を投稿し掲載された。

- ・地元の福祉施設で実施したボランティア活動から学んだこと（2年）
- ・服飾の作品づくりを通して学んだこと（1年）
- ・本校での3年間で自分が変わることができたことについて（3年）

3 体験学習の学校紹介を生徒によるパネルディスカッション

中学生が来校する体験学習の際の学校紹介は、職員が行ってきているが、生徒による説明の方がより中学生に伝わるのではと考え、今年度4回目となる体験学習の学校紹介は、生徒をパネリストにしてのパネルディスカッション形式で実施してみた。中学生や保護者からの反応は、予想をはるかに超えて好印象であった。このパネルディスカッションを聞いて本校への志願を決めたという中学生がいたくらいだ。

4 始業式・終業式のパネルディスカッション

始業式・終業式では、学年代表の生徒が反省や決意を作文にして発表してきた。体験学習でのパネルディスカッションを経て、始業式や終業式でも学年代表の生徒によるパネルディスカッション形式で、学期を振り返ったり、学期の決意を発表したりする場面を設けてみた。発表の生徒とは事前の打ち合わせは行わずに実施したが、予想以上に自分の言葉で語ってくれた。

5 部活動の充実と各種大会への積極的な出場

全国高等専修学校体育大会へは、例年のスポーツ吹矢部の他に卓球部とバドミントン部が出場。また、ボイスサークル部は声優コンテスト「声優魂」に参加。美術部は第60回高校美術展に出品し、県展に推薦された作品が1点ありました。さらに、スイミングスクールに通っている生徒は、高体連主催の大会であるインターハイ予選に出場し、長野県代表権を獲得し新潟で開催された北信越大会にまで出場した。卓球部の2年生男子は、北信地区の学年別卓球大会に出場。このように様々な大会に積極的に参加し他校との交流を図ってきた。

6 将来につながる各種検定への挑戦

各種検定の取得に向けて積極的に受検するように呼びかけてきている。ただし、検定料も必要になるので、受検できない生徒がいることにも配慮している。

- ・ワープロ検定
- ・表計算検定
- ・漢字検定
- ・英語検定
- ・コミュニケーション能力検定
- ・食物検定

7 生徒会が主体性を発揮した校則の見直し

「現状に合った校則にしたい」という要望が生徒会に寄せられた。生徒会本部役員は、生徒集会を行ったり、アンケートを実施したりして、校則に対する全校生徒の考えをまとめた。「生徒の主体的な姿勢を大事にしたい」という方針のもと職員も生徒の意向を大事にした新しい校則を決めた。

8 一日開催で盛り上がった体育委員会が企画運営した体育祭

台風19号の被災によって体育館が使用できなくなった。体育委員会は、体育の授業が実施できない現状を何とかしたいと考え、地域の体育館を借用して体育祭を企画した。これまでの体育祭は午後の2時間の中で実施してきたが、体育委員会から「一日開催としたい」と要望が出され職員会でも承認された。レクリエーション的な種目もあり、大いに盛り上がった体育祭となった。

9 地域貢献をめざして立ち上げたボランティア委員会

台風19号による災害を目の当たりにした生徒たちは「自分たちにできることはないか」「地域の力になりたい」という思いからボランティア委員会を立ち上げた。ランドセルや文房具などを届けたり、炊き出しの手伝い、避難所にいる小学生との交流などの活動を行っている。この様子は、テレビや地元新聞からの取材を受け、様々な場面で紹介されている。

10 生徒が秘めている魅力や意外性を発見できる「いばら祭」

今年度61回目となった「いばら祭」は、本校最大の行事であり生徒たちが生き生きと躍動する3日間である。特に、合唱・ダンス・演劇・ファッションショーなどの様々なステージ発表では、普段はなかなか見ることが出来ない生徒の意外な面を発見したり、大勢の観客の前で堂々と楽しそうに発表したりする姿は実に頼もしささえ感ずる。

ここで紹介した10の取り組み以外にも、「生徒が秘めている可能性を引き出し、さらに伸ばす」ための取り組みを全職員がそれぞれに与えられた場所で工夫している。それによって生徒の「やればできる」「できそうだ」「もっとできるようになりたい」という自信や前向きな姿勢が、確実に表出しているという手応えを感じることができた令和元年度であった。

今後も、職員一丸となり、「可能性への挑戦」を合言葉に、様々な取り組みに果敢に挑戦していきたいと決意を新たにしている。

資料⑤

中学3年生と保護者対象とした学校紹介「パネルディスカッション①」



人材創成コンソーシアム委員会及び地域ネットワークシステム開発委員会合同委員会において
パネルディスカッションを行った際の様子



私を遥かに超えていった生徒たち

～ 可能性を引き出した「パネルディスカッション」 ～

豊野高等専修学校 副校長 奥田孝志

「私はこの生徒たちを誇りに思います！」

こう発したときの私は、何とも表しようもない高揚感で声が震えていました。

これは、今年度最後となった中学3年生への第4回体験学習全体会で行ったパネルディスカッションのまとめとして、中学生と保護者に発した言葉です。

これまでの体験学習で行う学校紹介は、配布した資料を説明することが中心でした。しかし、職員からの説明だけではなく、生徒の目線で本校の学習や生活を伝えたいと思い、最後となった今回は思い切って生徒をパネラーとする「パネルディスカッション」形式で学校を紹介してみました。

パネラーとなる生徒については、専門科目についての説明もしてもらうので、各専門科目から担当の先生方にピックアップしてもらい、1年生2人、2年生3人、3年生2人、そして卒業生も招いて計8名で「パネルディスカッション」を行いました。

本音というか、飾らない声が聞きたくて事前に打ち合わせはしませんでした。生徒たちは、コーディネーター役の私からの質問に対して、その場で考えたことを即座に答えることとなります。原稿もありません。しかも、中学3年生とその保護者の約120名を前にして話をするのです。

ただでさえ、人前で話をする経験が少ない生徒たちです。大丈夫だろうか、話してくれるだろうか、予定している時間が余ってしまうのではないだろうか。大きな不安もあったものの、「きっと話してくれる」という期待もありました。

結果、8人の生徒たちは私の期待を遥かに超えていきました。正直驚きました！感動しました！生徒たちが話してくれた内容は、私が期待していた内容を遥かに超えていったのです。想定外の内容でした。「中学校生活はどうでしたか」という問いかけに対しての一部を紹介します。

・人に迷惑かけることは嫌いなのに、中学校では迷惑ばかりかけている自分が嫌いで、本当に苦しかった。

・真面目が取り柄なんですけど、真面目にしているとどうしても何かいい子ぶっているんだとか、おかしいよとか、いじめられていました。

・中学では、ほとんど学校に行けてなかったです。人というか先生も含めて大人を全く信用してなかったですね。

・ここに入学して、少し人を信じられるようになったし、同じような中学校時代を送ってきた人がいたので安心できました。

「話す」というよりは「語る」という感じで、その場で考えたことを自分の言葉で大勢の人の前で語ってくれました。生徒にとっては、中学時代の負の部分であったり、あまり思い出したくない出来事などについても語ってくれました。思わず聞き入ってしまう場面が何度かありました。

質問した私自身が「え？そこまで話してくれるの？」「え？そんな話をしてもいいの？」と思ってしまうこともあったくらいです。保護者の中には涙を流している人もいました。

人前で自分のことを話すのは勇気がいることです。しかも、事前の打ち合わせがなく、原稿も用意しない、その場での問いかけに対して、その場で考えたことをまとめて話をするのはとても難しいことです。でも、そういう「力」＝「伝える力」というのは、これからの時代（「国際化の時代」「AIとロボット化の時代」「少子高齢化加速の時代」などといわれている時代）を生きていく生徒たちには、必要な力であり身に付けて欲しい力です。

この他にも、台風19号の際に急遽実施した「校外活動」（水害により被害を被った施設の片付けなどのボランティア活動）のまとめの会でも、「今回の被害に対して私たちが出来ることは何だろう」という問いかけに対して、全校の前で堂々と、しかも中身の濃い素晴らしい提案をしてくれた人がいました。その提案のいくつかが実現されています。

不安もあるなかで挑戦してみた生徒によるパネルディスカッションによって、「発信力」を持った生徒が本校にも意外に多くいることがわかりました。

また、「生徒は無限の可能性を持っている」という大きな発見をすることができました。

今後も生徒が持っている可能性を引き出せるような取り組みをしていきたいと改めて強く思っています。

そして、この発見が来年度のグランドデザインにおける学校目標を「可能性への挑戦」と設定することに繋がっていきました。



資料⑦

入学前に可能な中学生への学習支援！

～ 学習相談を通しての中学生への支援 ～

1 学習相談とは

- (1) 本校を優先入学で希望している中学3年生に対して、国語と数学の基礎的な問題を解いてもらい、結果に対して解き方などの助言を行う。
- (2) 本校を受検する上で配慮すべきことを確認する。
 - ・書き障害があるため作文はPCで作成してよいか
 - ・場面緘黙のため、面接はホワイトボードによる筆談は可能か

2 学習相談の対象者

- (1) 優先入学を希望する生徒は、必ず学習相談を行う。
- (2) 一般受検（併願）希望だが、優先希望に変更の可能性のある生徒。

3 実施方法

- (1) 希望する場合は、所定の用紙に記入しFAXで申し込む。
- (2) 日程調整のための連絡をスムーズに行うために、申し込みは教頭先生にお願いしたい。
- (3) 例年、進路希望が徐々に固まりつつある10月から11月にかけて実施している。
- (4) 取り組みの結果や様子によっては、2回、3回と実施する場合がある。

4 学習相談の成果

- (1) 学習相談の結果を中学校での今後の学習または家庭学習に活かしてもらうために、中学校（主に教頭先生）と結果について連絡を密に取り合うようにしてきた。その結果、以下のような成果が得られた。

【事例①】

ほとんど登校できていない生徒が、数学の結果が芳しくなかったため、1か月後にもう一度学習相談を行うことになった。「次回までの1か月の間、少しでも登校して数学の先生方に教えてもらうように努力しよう」と助言した。2回目に相談に訪れた際、「〇が付いている日が登校して数学を教えてもらった日です」とスケジュール帳をニコニコしながら見せてくれた。そこには、1か月の間に、9個の〇が付けられていた。

2回目となる数学の出来は、1回目よりもかなりの伸びが見られた。

【事例②】

ほぼ毎日登校できている特別支援学級（知障）に所属している生徒が、数学の正答が半分以下だったため、もう一度来るように伝えた。その生徒には数学の問題用紙を持たせ、「2回目も同じような問題が出るから1カ月間頑張ろう」と助言した。

中学校の教頭先生に結果をお伝えして、1カ月間、数学の先生方に指導していただくようお願いした。1か月後の2回目は、正答の数も増え、所要時間もかなり短くなった。教頭先生に結果をお伝えすると「そうですか、良かったです。1か月間チーム〇〇（生徒の名前）で頑張りましたから！」とおっしゃっていただいた。

【事例③】

学習相談に担任の先生が同行していただいた学校がいくつかあった。問題を解き終えたらその場で、担当職員がつまずきなどを指摘したり、今後の学習方法などをアドバイスするので、そのやり取りを担任が聞いていて、翌日からの指導に活かすことができた。担任からも、生徒の日頃の授業の様子なども聞くことができて大変ありがたかった。

(2) 学力に大きな不安を持つ生徒が、学習相談を2回、3回と繰り返し行うことで前向きな気持ちになれた。

【事例】

初めて実施した時は、緊張したり、不安があったりして、思うように解答できなかった生徒が、2回目は、落ち着いた表情で解くことができていた。結果的にも、1回目よりも格段に正答率が高まり、ガッツポーズまで飛び出した。その時の何とも言えないにこやかな表情は、喜びと自信に満ちていた。

さらに、1回目に問題が解けないとイライラする表情を見せていた生徒が、2回目は落ち着いて解いていた。その際の受け答えも改善されていた。

5 まとめ

本校に入学してくる生徒の多くは、自分に自信が持てないで自分を卑下している生徒もいる。その自信のなさの原因の一つが、通常学級における授業を受けた経験の少なさからくる学習に対する不安である。

そのような不安を抱えている生徒たちに、この学習相談を通して「出来たときの喜び」や「やればできるという自信」を少しでも持ってもらいたいという願いで学習相談を実施している。今後も学習相談を通して中学校との連携を深めながら、入学前に可能な学習支援を行っていきたい。

資料⑧ 本校への志願・進学を決めたアンケート

今後の生徒募集をより充実させていくために、アンケートへのご協力をお願いいたします。

1 本校への志願・進学を決めるにあたっての理由として当てはまるものに○をお願いします。いくつ○をしていただいてもかまいません。

- ① () 専門科目(和裁・洋裁・情報・美術・介護)の中に自分がやってみたい科目があったから
- ② () 学校見学に来たとき、先輩たちの様子が楽しそうだったから
- ③ () 体験学習の時にいった授業が楽しかったから
- ④ () 少人数で学べるから
- ⑤ () 校舎がログハウスで感じが良かったから
- ⑥ () さくら国際高校と提携していて、高校卒業の資格も取ることができるから
- ⑦ () カウンセラーの先生が多くて相談体制が充実しているから
- ⑧ () 学習の内容や進み方がついていけそうで、自分に合っていると感じたから
- ⑨ () 最後の第4回体験学習の時の先輩たちの話を聞いたから
- ⑩ () 駅が近くて通学するのに便利だから
- ⑪ () B組のようなクラスがあって自分に合っていると思ったから
- ⑫ () パンフレットなどで取りたい資格が取れることを知ったから
- ⑬ () 先輩や友人が本校にいるから
- ⑭ () 中学の先生やかかりつけの医者に勧められたから
- ⑮ () 部活動の中に入部してみたい部があったから
- ⑯ () その他(下線部に具体的に書いてください)

2 体験学習・教育相談・学習相談・学校見学などに関しまして、ご要望やご意見などがありましたら、お願いします。

3 本日の手続きに関する説明などに関してご意見ご要望などありましたらお願いします。

本校への志願・進学を決めたアンケート結果

(回答数46：2月8日手続き日実施)

1	専門科目の中に自分がやってみたい科目があったから	45	98%
2	少人数で学べるから	39	85%
3	学習の内容や進み方がついていけそうで、自分に合っていると感じたから	39	85%
4	体験学習の時にいった授業が楽しかったから	29	63%
5	校舎がログハウスで感じが良かったから	29	63%
6	さくら国際高校と提携していて、高校卒業の資格も取ることができるから	28	61%
7	学校見学に来たとき、先輩たちの様子が楽しそうだったから	26	57%
8	最後の第4回体験学習の時の先輩たちの話を聞いたから	25	54%
9	カウンセラーの先生が多くて相談体制が充実しているから	21	46%
10	中学の先生やかかりつけの医者に勧められたから	13	28%
11	駅が近くて通学するのに便利だから	12	26%
12	パンフレットなどで取りたい資格が取れることを知ったから	12	26%
13	B組のようなクラスがあって自分に合っていると思ったから	11	24%
14	先輩や友人が本校にいるから	7	15%
15	部活動の中に入部してみたい部があったから	5	11%

中学1年生から本校三か年の6年間の欠席数の推移

平成30年度 卒業生

	中1	中2	中3	所属	高1	高2	高3	進学	就職
1	82	210	190	中間教室	17	7	0	新潟コンピューター専門学校内定	
2	1	0	1	自情障学級	4	0	2	岡学園(ファッション科)内定	
3	34	36	7	自情障学級	6	7	4	長野調理製菓専門学校内定	
4	1	2	7	自情障学級	4	7	15	カレッジオブキャリア内定	
5	8	83	91	中間教室	24	19	11	東京放送芸術&映画・俳優専門学校内定	
6	0	2	2	自情障学級	0	1	3		株式会社コヤマ(予定)
7	3	1	6		1	3	3	長野美術専門学校内定	
8	165	134	81	中間教室	10	0	4		有限会社クラール内定
9	12	5	1	自情障学級	0	0	0	新潟コンピューター専門学校内定	
10	0	0	0	自情障学級	0	0	0	カレッジオブキャリア内定	
11	0	36	45	中間教室	8	15	8	東京コミュニケーションアート専門学校内定	
12	2	7	4		8	18	4		須坂やすらぎの園内定
13	2	14	52	自情障学級	19	7	9	新潟調理師専門学校内定	
14	41	157	12	中間教室	5	8	26	大原学園専門学校内定	
15	25	27	154	中間教室	23	16	10	アミューズメントメディア総合学院内定	
16	5	6	7	自情障学級	32	65	71	新潟コンピューター専門学校内定	
17	0	1	0		0	2	1		豊上製菓株式会社内定
18	6	115	157	不登校	1	1	5	長野大学(社会福祉部)内定	
19	2	2	1	知障害学級	4	4	4		ホテルセレクトイン長野内定
20	0	0	0		0	1	3	オーストラリアの言語学校内定	
21	125	7	1	中間教室	1	2	0	信州医療福祉専門学校内定	
22	4	91	131	自情障学級	18	27	40	東海大学(海洋学部)受検	
23	78	73	69	自情障学級	5	9	1	岡学園(ファッション科)内定	
24	130	84	117	不登校	32	19	3	岡学園(ファッション科)内定	
	726	1093	1136		222	238	227		

令和元年度 卒業生

※令和2年1月末現在

	中1	中2	中3	所属など	高1	高2	高3	進学	就職
1	0	0	0	ADHD	0	0	0	長野技術専門学校	
2	102	57	19	自情障学級	11	14	4	豊野高等専修学校専門課程	
3	6	122	56	放課後登校	15	2	1	大原簿記情報ビジネス医療専門学校	
4	3	19	14	相談室	43	40	8	豊野高等専修学校専門課程	
5	82	177	72	自情障学級	0	3	44	豊野高等専修学校専門課程	
6	0	1	1	自情障学級	5	1	6		株式会社松栄寿司
7	0	1	1	LD、発達障害	0	1	0		株式会社全日警長野
8	122	201	131	中間教室	0	0	1	東京ベルエポック	
9	0	0	0	自情障学級	12	10	0		クラール
10	154	199	30	自情障学級	2	0	9	豊野高等専修学校専門課程	
11	30	24	19	情緒障害	12	23	30	豊野高等専修学校専門課程	
12	12	205	142	自情障学級	0	3	7	豊野高等専修学校専門課程	
13	176	142	114	情緒障害	3	3	29	豊野高等専修学校専門課程	
	687	1148	599		103	100	139		

令和元年度 表彰・入賞者及び各種検定合格者

(令和2年2月14日現在)

「あいサポート企業・団体」として認定	学校法人豊野学園 豊野高等専修学校
--------------------	-------------------

■高等課程

3ヶ年皆勤賞	小林隼人 ・ 宮島啓斗	
第6回NAGANOデザインフェスタTシャツ部門 県知事賞	戸谷田 小晴	
第6回長野県私学振興大会 理事長表彰 「挨拶運動」	中山ひなた ・ 原山瑠香	
介護 介護職員初任者研修修了者	平林 寛	
服飾	全国高等学校家庭科被服製作技術検定3級	遠藤仁 中山ひなた 原山瑠香
	全国高等学校家庭科被服製作技術検定4級	大内さくら 高野丞 原田知沙 北澤美奈 加藤光 須坂育美 藤木夏歩
家庭	全国高等学校家庭科食物調理技術検定3級	寺島龍斗
	全国高等学校家庭科食物調理技術検定4級	池田紗也加 伊藤美沙希 大谷梨華 北川謙信 関口啓介 関谷省吾 田中蓮 戸谷田小晴 中山ひなた 原海斗 樋口さくら 松本遼 宮澤乙姫 小池真央
情報	日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定 1級	竹内光希
	日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定 2級	馬場南帆
	日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定準2級	伊藤美沙希 馬場南帆 池田紗也加
	日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定 3級	本間美帆 田中蓮 原海斗 篠原将吾 小野寺裕季 小林涼汰 松澤諒輔 市川空澄 本藤響 山岸綾斗 小林叶采 小池真央 大谷梨華 山洞己輝
	日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定 4級	小林彩乃 小林涼汰 牧瞳奈 松澤諒輔 市川空澄 伊藤優奈 中込翔太 本藤響 村松愛海 小林叶采 竹内孝生 吉村昭人
	日本情報処理検定協会 情報処理表計算 1級	篠原将吾
	日本情報処理検定協会 情報処理表計算 準1級	松本遼 竹内光希
	日本情報処理検定協会 情報処理表計算 2級	桑原詩歌 小林大祐 樋口さくら
	日本情報処理検定協会 情報処理表計算 準2級	本間翔也 池田紗也加 関口啓介 松本遼 桑原詩歌
	日本情報処理検定協会 情報処理表計算 3級	小林彩乃 牧瞳奈 伊藤優奈 永田竜聖 伊藤美沙希 田中蓮 原海斗 丸山到馬 外崎翼 大谷梨華 吉村昭人
	日本情報処理検定協会 情報処理表計算 4級	小林隼斗 永田竜聖 コウジャンニン 関谷省吾
	日本情報処理検定協会 スピード日本語 4級	吉澤碧流
	日本情報処理検定協会 スピード日本語 5級	河合駿一郎
日本英語検定協会 実用英語技能検定 4級	小林 彩乃	
日本英語検定協会 実用英語技能検定 5級		
日本漢字能力検定協会 日本漢字能力検定 準2級		
日本漢字能力検定協会 日本漢字能力検定 3級	馬場南帆	
日本漢字能力検定協会 日本漢字能力検定 4級	伊藤美沙希	
日本漢字能力検定協会 日本漢字能力検定 5級	池田璃華子	

■専門課程

日本英語検定協会 実用英語技能検定 3級	小林 大祐
一般社団法人日本ファッション教育振興協会 ファッション販売能力検定 3級	
一般社団法人日本ファッション教育振興協会 ファッション色彩能力検定 3級	
一般社団法人日本ファッション教育振興協会 洋裁技術検定 中級	宮下侑佳
一般社団法人日本ファッション教育振興協会 和裁技術検定 中級	小林実華